

柳宮(柳まつり)由緒略記

柳宮神社は元の名を杉森神社といい、創建の年代は詳でない。また、ご祭神は杞柳の神であると、言い伝えられているが不明である。社記によれば五男三女神(福德の神)ともいわれている。口碑によれば、往古この社の境内は老樹が鬱蒼とした森であったために、人々はこれを須義森と言っていたのを、のち、字音により文字を誤って杉森神社と称するようになったという。

ところが、両部神道がさかんとなり小田井県神社に別当職が置かれるに及んで本社のご祭神は八王子権現であるといい、この土地の守護神とするに至って、附近一帯を権現堂と呼ぶようになった。この社のご祭神を柳の神であると称したのは、この権現堂地域に産する杞柳は、極めて良質で、他に比類がなかったので、斯業者の崇敬が篤くなったためである。然しながら、明治維新以後、欧米の文化が滔々と流入し、すべてが異常な変革を来たすに及んで、神仏に対する信仰の念もうすれ、本社も殆ど顧みられない状態となったので、頽廢に委せてはならないと、小田井県神社の境内に神霊を遷したのである。

その後、杞柳工業は隆昌に赴き、敬神の念も勃興するに至って、本社の新築の議が起ったが、諸種の事情に妨げられ実現するに至らず、ようやく昭和10年(1935年)になって斯業者、その他有志者の熱烈な努力が実って、社殿を新築し、柳宮神社と称し盛大な祭典を執行することができたのである。その後は、豊岡町の商工祭として年々祭典を執行し、今日に及んでいるのであるが、その後、杞柳産業は次第に鞆産業に移り変わり、現在では鞆産業と杞柳産業とが、豊岡市の重要な産業であるので、柳宮神社を豊岡市産業の守護神とし、柳まつりを、豊岡市の祭として、年々工夫をこらして盛大に行っているのである。

